

地域と協働してよりよい社会づくりに貢献します

快適で豊かな地域・社会の実現と、その持続的な発展を目指し、良き企業市民として、地域・社会の皆さまとの協働による共生活動を推進します。

2012トピックス

- ☑ 出前授業をはじめとした「九電みらいの学校」に積極的に取り組んでいます
- ☑ 九州各所における地域見守り活動のネットワークに参加し、検針等の業務特性を活かした地域貢献に取り組んでいます



地域・社会共生活動の更なる充実へ向けた取組み

地域・社会共生活動基本方針

当社は創業以来、地域社会の発展と地域との信頼関係が当社の持続的な発展の前提であるとの認識の下、さまざまな地域・社会共生活動に取り組んできました。

また、2006年4月に活動を行ううえでの指針として「地域・社会共生活動基本方針」を制定するとともに、部門横断的にマネジメントを行う推進体制として「地域・社会共生活動連絡会議」を設置し、全社最適の視点で更なる活動の推進に繋げていくこととしています。

2012年度寄付金支出額実績

4億2,300万円

地域・社会共生活動基本方針

九州電力は、快適で豊かな地域・社会の実現と、その持続的な発展を目指し、以下の原則に基づき、良き企業市民として、積極的に地域・社会共生活動を推進します。

- 1 「地域振興」「文化・芸術」「スポーツ」「学術・教育」「社会福祉」「健康・医療」「国際交流」「環境保全」の分野で、魅力ある地域づくりや次世代層の育成などを行うとともに、地域・社会の課題解決に向けた取組みを行います。
- 2 当社の持つ経営資源を有効に活用した取組みを行います。
- 3 活動内容を公表し、皆さまとコミュニケーションを図ることにより、その声を諸活動に反映させるとともに、地域・社会の皆さまとの協働を進めます。
- 4 従業員が一市民として行う共生活動を支援します。

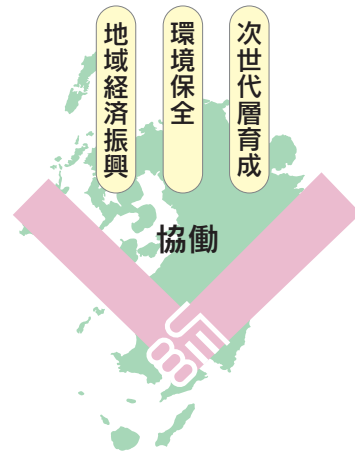
重点テーマ「環境保全」「次世代層育成」「地域経済振興」に関する取組みの充実

2010年6月には、地域・社会共生活動を通じ、地域社会が抱えるさまざまな課題の解決に取り組むことにより持続可能な社会づくりに貢献するため、アンケートや対話訪問活動等により抽出した「お客さまが当社に取組みを期待する分野」、「九州の地域課題」、「当社が果たしていくべき責任」を踏まえ、地域・社会共生活動における重点取組分野として「環境保全」「次世代層育成」「地域経済振興」を掲げ、取組みを推進していくこととしています。

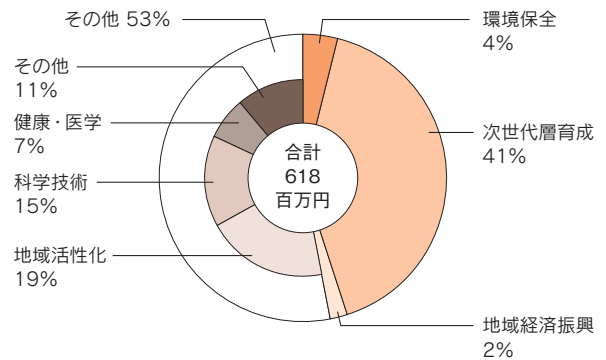
また、地域課題を的確に把握するためには、積極的に地域社会とのコミュニケーションを図っていくことが重要であるとの認識の下、地域と共に考え、共に行動する「協働」による取組みを通じた地域の皆さまとのコミュニケーションも推進していくこととしています。

●環境保全の推進

設備形成や運用など事業活動に伴い環境負荷を発生している電気事業者としての社会的責任を果たすため、低炭素社会づくりをテーマとする地域プロジェクトへの参画や地域との協働による「九州ふるさとの森づくり」など、地域環境の保全に資する取組みを積極的に展開しています(P64・65「環境経営の推進『社会との協調』」参照)。



▼地域・社会共生活動に関する支出内訳(2012年度)



※「環境保全」には、環境会計に計上されている社会活動(九州ふるさとの森づくり、地域環境活動支援)を含みます。

TOPICS

坊ガツルの野焼き活動(大分支社)

大分支社では、国際的に重要な湿原として「ラムサール条約」に登録されている「坊ガツル」の美しい風景を守るため、「坊がつの野焼き実行委員会」の一員として、委員会の運営や野焼き活動への支援・協力を行っています。

2012年9月に行われた「輪地切り」と呼ばれる除草作業には、地元各団体を中心に当社社員やグループ企業など総勢130名のボランティアが参加し、

野焼きの準備を行いました。また、同月、約60名が参加した「輪地焼き」で事前準備を整えた後、今年3月には70名を超えるボランティアが見守る中、野焼き作業が行なわれました。

春の芽吹き前に野焼きを行うことで、美しい湿原の景観や希少で多様な生き物たちの生育環境が守られています。

大分支社では、今後も引き続き地元

の方々と共に、湿原の保全に向けて取り組んでいくこととしています。



野焼きの様子



地域と協働してよりよい社会づくりに貢献します

◎次世代層の育成

持続可能な社会をつくるのは「人」であるとの認識のもと、次代の九州を担う子どもたちの可能性拡大や、能力向上への貢献を目的とし、エネルギー・環境問題への関心喚起を中心とした次世代層育成の取組みを展開しています。

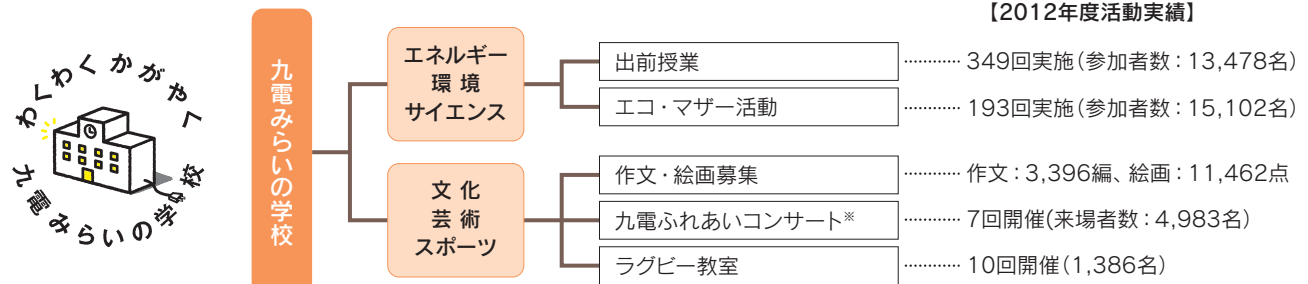
～次世代層支援プロジェクト「九電みらいの学校」～

九州の子どもたちに、エネルギー・環境や文化・芸術等に関する学びや出会いの場を提供し、子どもたちの好奇心を刺激するとともに感性を豊かにすることを目的に、九州各地で様々な活動を展開しています。

将来を担う次世代層を対象に、当社社員が学校等を訪問し、電気をつくる仕組みや省エネ、環境等について授業を行う「出前授業」など、エネルギー・環境問題等への関心を育てる活動を行うとともに、ラグビー教室など、地域に密着した活動に取り組んでいます。



出前授業



※「九電ふれあいコンサート」は2013年度の開催予定はなし

❖九州地域の高度ICT(情報通信技術)人材育成

情報通信本部では、部門の持つ技術やノウハウを活用し、九州地域の学生に対して高度な情報通信技術の実践習得を支援しています。

具体的には、九州経済連合会の先導的ICT人材育成施策と連携し、九州工業大学からの学生を長期間受け入れ、通信ネットワークの設計や評価といった当社の実際の業務を担当しながら、高度な技術やノウハウを習得するための教育を行っています。

また、北九州市などが主催する情報通信技術利活用実験に毎年参加・協力し、参加学生に対して技術的な実践指導を行っています。

実践インターシップに参加して

九州工業大学大学院
光根 隆文 さん



社内の通信ネットワーク構築プロジェクトに関わることで、学校とは違う研究観点や様々な分野の研究内容を学ぶことができました。また、変電所やデータセンターなど普段見ることが出来ないような場所を見学することができ、貴重な体験ができました。

今回、実践的な業務を経験することによって、仕事に対する姿勢というものを感じることが一番の学びとなりました。

ラグビー部「キューデンヴォルテクス」の地域共生活動

当社の「シンボルスポーツ」と位置づけるラグビー部では、地域の皆さまから愛され、親しまれるチーム作りを行うとともに、各地域の少年ラグビーチーム等への指導やイベントへの参加など、ラグビーを通じた地域スポーツの活性化に取り組んでいます。

ラグビー教室(於: 宮崎)



◎地域経済振興への協力

人口減少社会においても持続的に発展する地域経済の確立を目的とし、産学官で連携して行う地域プロジェクト等に、当社のノウハウや知見を活用し、積極的に協力しています。

各支社においては、自治体等との協働による地域活性化策の検討や地域に根ざした地場産業振興のための物産品展の支援など、様々な取組みを展開しています。



TOPICS

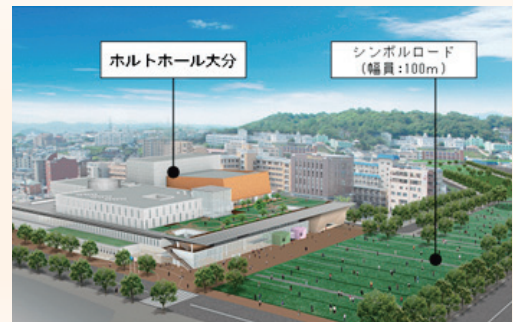
地域の皆さまと共に考え、魅力あるまちづくりに貢献

技術本部では、発電所建設等から蓄積した土木建築技術を活かし、九州各地の自治体や地域の皆さまと共に、官民協働によるまちづくりプロジェクトに取り組んでいます。

(2012年度累計：PPP事業12件・コンサルティング受託4件)

JR大分駅周辺開発のひとつである「ホルトホール大分整備運事業(大分市発注)」は、ヒートポンプ技術を活用した空調設備や太陽光発電等の省エネルギー提案を行い、学識者等で構成された審査委員会からの評価を受け、プロジェクト実施者として採択に至ったものです。

今後とも、九州の皆さまと共に考え、魅力あるまちづくりに取り組んでいきます。



TOPICS

「薩摩焼フェスタ」への協力(鹿児島支社)

鹿児島支社は、伝統工芸産業支援を通じ、地域活性化及び次世代層育成を図ることを目的に、「第23回薩摩焼フェスタ」の開催の支援を行いました。

本フェスタは、県や市、陶業協同組合等で構成する「薩摩焼フェスタ実行委員会」主催で「薩摩焼」を広く県内外の方々に紹介する目的で開催され、今回で23回目を迎えました。

期間中は県内外から多数の方々が来場し、「チャリティーオークション」や

「子供陶芸作品展」など、多種多様な催しを楽しまれていました。

また、「子供陶芸作品展」では、「九州

電力(株)鹿児島支社長賞」を設け、個性あふれる素敵な作品を表彰させていただきました。



支社長賞を受賞した作品



表彰の様子



地域に密着した共生活動の推進

地域社会の一員としての役割を着実に果たすとともに、地域の皆さまとのコミュニケーション活動の一環として、コミュニティの安全・安心の確立に向けた取組みや地域行事への積極的な参加を行うこととしています。

❖ 地域のまつりへの参加

地域活性化の一環として、また、地域の皆さまとの絆を深めるため、各事業所やグループ会社の社員が地域のまつりへの参加・運営を行っています。

▼2012年度 まつり参加実績

- 参加者数：延べ約1,590名



ランタンフェスティバル(長崎支社)

❖ 地域のスポーツ大会への支援

地域におけるスポーツ活動の活性化及びレベルの向上を図り、明るく健康的な地域社会の形成を目指して、青少年を対象としたスポーツ大会等の支援を行っています。

▼2012年度 スポーツ大会支援実績

- 59事業所、73大会、20種目、参加約31,450名



事業所大スポーツ(武雄営業所)

❖地域課題の解決に向けた取組み

◎地域見守り活動

地域に密着した事業形態を活かし、22の自治体・関係団体と協定や覚書を締結するなど、地域の皆さまと連携のうえ、地域の見守り活動や防犯活動への協力を行っています。

◎「子ども110番」活動への協力

「子ども110番」活動への協力など、子どもが犯罪に巻き込まれない環境づくりを九州全域で実施しています。



子ども110番ステッカーを貼付した車両 のほり

◎不法投棄パトロール

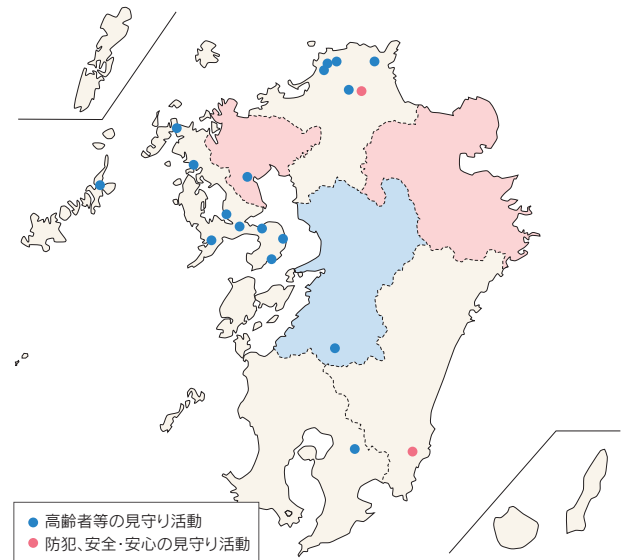
業務用車両での移動中などに廃棄物の不法投棄を発見した場合、自治体へ情報提供を行う「廃棄物の不法投棄対策に関する協定」を24事業所で、延べ50の地元自治体と締結し、環境美化の保全に協力することとしています。

▼高齢者等の見守り活動

福岡県	北九州市、飯塚市、福津市、古賀市、宗像市
佐賀県	嬉野市
長崎県	長崎市、島原市、雲仙市、平戸市、佐世保市、大村市、諫早市、南島原市、新上五島町
熊本県	熊本県、人吉市
鹿児島県	曽於市

▼防犯、安全・安心の見守り活動

福岡県田川市、佐賀県、大分県、宮崎県日南市



北九州市では、支援が必要と思われる方を社会から孤立させないために、「いのちをつなぐネットワーク事業」という地域連携の取組みを行っており、当社も参画しています。

倒れているお客さまを救助することができ、地域の役に立てた喜びを感じた一方、責任の大きさを実感しました。

私たちの職場では、現場でお客さまの異変等に気づいた場合は適切な対応をするよう、社員はもちろん料金委託員にも伝えていました。

先般、現場を訪問した際、血を流して倒れているお客さまを発見したため、応急処置を行い、救急車を手配しました。

今回の救助では、地域の役に立てた喜びと責任の大きさを実感しましたが、当社の事業が地域と共にあることを胸に刻み、今後も住みよい社会を築く一翼を担っていきたいと思っています。



小倉営業所
料金委託員
しらかわ 白川

小倉営業所
料金運営グループ
しん のぶひで 新 庸秀

九州電力 社員の思い

地域と協働してよりよい社会づくりに貢献します

TOPICS

「熊本見守り応援隊」としての地域見守り活動実施（熊本支社）



熊本支社では、2012年7月に熊本県が行う「熊本見守り応援隊」活動への協定締結を行いました。この活動は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、新聞社やタクシー協会等の民間事業者と行政が積極的に協力・連携して地域福祉の向上を目指して取り組むもので、熊本支社も民間事業者として協力をを行っています。

協定を締結した7月以降3月末までの間に当社関係者から4件の通報を行うなど、このネットワークが活用されています。

【協定締結先】

- ・熊本県
- ・熊本県警察本部
- ・熊本県社会福祉協議会
- ・熊本県民生委員児童委員協議会
- ・熊本市民生委員児童委員協議会



熊本県で行われた締結式

従業員が行う共生活動への支援

従業員が積極的にボランティア活動に取り組めるよう、ボランティア休暇制度（年間7日間）や活動費用補助、社内掲示板での情報提供などの環境づくりを行っています。

これらの制度を活用して、2012年度は延べ3万人を超える従業員がボランティア活動に参加しています。

「地域社会貢献者表彰制度」では、長年にわたり地道に地域社会への貢献活動を行っている従業員を表彰しています。

年度	2010	2011	2012
ボランティア休暇取得実績(日)	119	328	160.5
地域社会貢献者表彰(人)	34	33	38

TOPICS

地域の一員としての清掃活動（北九州支社）



北九州支社ビル内の4事業所（北九州支社、北九州お客さまセンター、小倉営業所、北九州電力センター）では、第1から第4水曜日を活動日と定め、始業前に輪番制で地域清掃活動に取り組んでいます。

この活動は、小倉営業所が2007年頃から続けていた地域清掃活動で、2011年7月の組織改正を機に他3事業所が加わり、併せて北九州市が運営する「北九州道路サポーター制度」※への登録を行ったことで活動の輪が広がり、2012年度には、年間で延べ約2,200名の社員が参加するまでにりました。

また、このような清掃活動や地域の一員としてのまつり等への参加に

よる地域活性化への貢献が認められ、2012年2月には小倉北区役所から「小倉北区地域貢献企業」に選定していただき、表彰を受けました。

同支社では、この受賞を励みに、今後とも積極的に地域活動に取り組んでいく考えです。

「北九州市道路サポーター制度」

北九州市が行う道路の清掃や点検などのボランティア活動を支援する制度。

一定の要件をクリアし、道路サポーターとして登録した団体には、北九州市から清掃用具や花の苗の支給等の支援を受けることができる。

2013年3月現在での登録数は、187団体、11,005名



清掃活動の様子



「小倉北区地域貢献企業」表彰状

災害からの復興に向けたボランティア活動

❖九州北部豪雨災害復興支援活動

2012年7月に発生した九州北部豪雨災害においては、被害を受けた地域の延べ約170名の従業員が、土砂のかき出しや家具の泥落とし作業などのボランティア活動に従事しました。

また、九州電力グループ及び九州電力総連加盟組合の企業の労使が一体となって行った募金(総額約1,900万)円を3県(福岡、熊本、大分)へ贈呈したほか、九州電力グループ従業員による「収集ボランティア」で集まった書き損じハガキを、八女市において復興支援活動に取り組むNPOへ寄附するなど、様々な支援活動に継続的に取り組んでいます。



別府営業所の従業員による土砂運搬作業(竹田市)

❖東日本大震災復興支援活動

東日本大震災については、実際に現地に足を運び活動を行う従業員の活動費用補助と九州から被災地を応援する復興支援イベントへの協力などを通じて、支援活動を続けています。

2013年3月に福岡市天神地区で開催されたイベント「Smile! Fukuoka to Tohoku」(主催:がんばろう日本 福岡・九州推進協議会)には、従業員12名がボランティアとして参加しました。このイベントでは、九州から遠く東北の方々への想いを届ける「木」をモチーフにしたアートの制作や東北の物産展が行われ、ボランティアとして参加した従業員も販売員や受付、または参加者のひとりとしてアートの制作に協力するなど、被災地の方々に思いを寄せた1日となりました。

いまだ復旧に至っていない被災地の状況をTVや新聞で拝見し、福岡からでも何か協力できることはないかと思っていたところ、会社でボランティアの募集があったので、妻にも声をかけ、参加しました。当日は電力マンとしてではなく、一個人として東北の皆さんと一緒にいることを示したい、という思いで活動しました。

今回の活動で、被災地の方に思いが届き、少しでもお役に立てたならば嬉しく思います。また、活動を通じて地域の皆さんと触れ合うことが出来、皆さんの話をお聞きすることが出来る貴重な時間となりました。

またこのようなボランティアの機会があれば、是非参加したいと思います。

「Smile! Fukuoka to Tohoku」に参加して



いけば かずひろ
発電本部部长 池辺 和弘

九州電力 社員の思い

グループ会社における地域・社会共生活動

グループ会社における取組み

九州電力グループは、グループの行動憲章として「事業活動や社会貢献活動を通じ、地域・社会の皆さまと協力し、その発展に積極的に寄与する」ことを掲げ、社会的課題解決へ向けた事業活動の展開や次世代層育成への取組み等、様々な形で地域社会の持続的発展に向けた共生活動を推進しています。

TOPICS

職場体験学習「福岡航空少年団が格納庫見学とフライト体験」～西日本空輸(株)の取組み～



当社グループ会社の西日本空輸(株)では、毎年、「福岡航空少年団(田村和男団長)」の格納庫見学やフライト体験の職場体験学習を受け入れています。

当日は、約40名の団員がヘリコプターの格納庫を訪れ、パイロットから直接機体全体や機内の操縦席などの説明を受けた後、カメラや携帯電話に関する注意事項をしっかりと聞き、いよいよヘリコプターへ搭乗です。フライトは、福岡空港の東側、古賀市や宗像市上空を巡回するコースで、飛行時間は約10分間、2回の飛行で、選ばれた

8名が体験しました。

初めてヘリコプターに乗った団員は、「あっという間だったけど、とても楽しかったです。また、乗ってみたいです」と、楽しそうに話してくれました。

同社では、今後も地域の皆さまとの触れ合いを大事に、職場体験学習の受け入れなど地域との共生活動を続けていくこととしています。



格納庫を見学する様子



ヘリコプター前での記念撮影

TOPICS

急速充電器の無料開放スタート～九電テクノシステムズ(株)(Qテクノ)の取組み～



電気自動車は、走行中にCO₂や排気ガスを出さない、地球環境に優しい次世代自動車として世界中で注目されています。当社グループ会社のQテクノでは、この電気自動車の普及に不可欠な充電インフラ設備を当社総合研究所と共同開発し、2009年度から販売を開始しました。

また、同社は、電気自動車やプラグインハイブリッド自動車のユーザーに広く活用していただくため、2012年4月

から本店西エリアの構内に急速充電器を設置し、登録していただいた法人様を対象に無料開放を始めました。会員法人様からは、「充電不足の心配が減った」と大変喜んでいただいております。

同社は今後とも、電気に詳しい会社として、商品、サービスおよび効率的な契約メニューのご提案などによるお客さまへのトータルサポートを通じて、低炭素社会に貢献していくこととしています。



Qテクノ本店西エリア3号館玄関前に設置している急速充電器(スタンド2台タイプ)



TOPICS

「就業体験」の実施 ～九電産業㈱の取組み～

当社グループ会社の九電産業㈱では、高等専門学校及び大学の学生を対象に、職業観の涵養、学習意欲の喚起を目的とした「就業体験」を実施し、大学等で学んだ工学的知識や技術が企業でどの程度応用できるかに関する体験学習の場を提供しています。

約2カ月にわたって行われる学習の内容は、環境分野等で必要な水質分

析、土壌分析、大気分析、温泉水分析等に関する現場でのサンプリングや分析実習などで、最終日には、学生が就業体験で得た成果を発表する報告会を開催しています。

同社では、これからも、次世代層育成支援の取組みとして、「就業体験」を継続的に実施していくこととしています。



報告会の様子

事業活動を通じた取組み

医療救護施設へのポータブル電源装置の適用に関する取組み

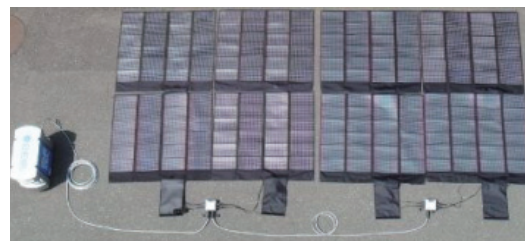
当社は、電力事業における夜間作業の効率化・静音性向上などを目的として、リチウム電池を適用したポータブル電源装置を開発しました。

このポータブル電源装置は、先の東日本大震災の被災地（日本赤十字社の臨時医療施設）において、空調や照明用電源として活用され、医療支援活動に大きく貢献しました。

これがきっかけとなり、2011年11月からポータブル電源装置を適用した医療救護施設への電源供給について、日本赤十字社と共同研究を実施しており、大型空調に対応した大容量タイプへの改良や太陽光充電制御ユニットの開発などの技術開発に取り組んでいます。



被災地臨時医療施設での貸出し



太陽光充電制御ユニットの開発

電気自動車(EV)充電インフラ整備に向けた取組み

当社では、CO₂排出抑制に向けた取組みとして、EVの普及促進に必要な充電インフラに関する技術開発を推進してきました。

急速充電器は2006年度から開発・実証実験を実施し、2009年9月にグループ会社の九電テクノシステムズ(株)が販売を開始しています。同充電器は、電源部と充電操作を行う充電スタンド部が分離することにより、充電スタンド部のコンパクト化を図るとともに、IDカード等による個人認証機能を標準装備するなど、利便性向上を図っています。

また、2012年度には、上記個人認証機能に加えて、携帯情報端末にイベント情報や防災情報等を配信可能なシステムを装備した普通充電スタンドも開発しました。

【分離型急速充電器】



充電スタンド部

電源部



普通充電スタンド



TOPICS

「地域の安全と安心の確保」と「人と多様な生物の共生」をめざして ～耳川水力整備事務所の取り組み～

2005年の台風14号による記録的な降雨の影響で、山の斜面の崩壊や過去最大の浸水など土砂に起因する甚大な災害が発生した耳川(宮崎県)では、「地域の安全と安心の確保」と「人と多様な生物の共生」をめざして、山地から河川、海岸に亘る流域関係者が一体となって、様々な協働の取り組みを進めて

います。(耳川水系総合土砂管理計画・2011年10月宮崎県策定)

この中で耳川水力整備事務所は、ダム設置者として、河川の安全、水の利用及び環境保全の観点から、ダムの改造を行い(2011年11月着工)、ダムにおける土砂流下を継続的に実

施・改善していく取り組みなど、これらの協働の取り組みに対し積極的に参画しています。

■土砂流下を行うためのダムの改造



山須原ダム(改造前)



山須原ダム(改造後イメージ)

TOPICS

一ツ瀬川濁水軽減対策の取り組み



一ツ瀬発電所は、宮崎県中央部を東南に流下して日向灘に注ぐ一ツ瀬川の中流部に位置し、九州で最大規模の貯水池を有する出力18万kWの水力発電所です。

当発電所は、運転開始後間もない1965年頃から、一ツ瀬ダムにおいて濁水が長期化する現象が見られるようになり、下流の利水、漁業、景観に影響を及ぼすようになりました。このため、当社は1974年に選択取水設備を設置、その後も種々の対策を講じてきました。

ところが、2004、2005年と相次ぐ大型台風の来襲により、2年連続して100日を超える濁水長期化が発生し、

特に2005年の台風14号では、その日数は約8か月にも及びました。

現在、2008年に宮崎県、流域市町村、学識経験者及び当社で構成される「一ツ瀬川水系濁水対策検討委員会(現：評価検討委員会)」で策定された「一ツ瀬川濁水軽減対策計画書(改訂)」に基づき、当社の役割であるダムでの濁水対策設備工事や中下流域の河川環境モニタリング等を行っています。

また、流域の皆さまに流域全体の河川情報をリアルタイムでお伝えできるよう、当社が中心となってシステムの検討、構築を行った流域情報監視システムは、「評価検討委員会」の管理・運営

の下、2011年8月に運用を開始。現在、多くの方々に閲覧いただいています。

今後も、濁水軽減対策について、宮崎県をはじめ流域関係者の皆さまと一体となって積極的に取り組んでいきます。



一ツ瀬川濁水対策情報